

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	竹田 好香 (たけだ このか)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2024 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本・認知行動療法学会第 50 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	竹田 好香, 前田 千晴, 佐々木 三紗, 高橋 恵理子, 桂川 泰典
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	大学生における過剰適応と抑うつに関する短期縦断的検
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><発表の概要></p> <p>過剰適応は、「内的な欲求を無理に抑圧してでも、外的な期待や要求に応える努力を行うこと (石津・安保, 2008)」と定義されており、過剰な外的適応と内的不適応という 2 側面から構成されることが示されている (益子, 2013)。また、抑うつとの関連が示されている (石津・安保, 2009; 風間, 2015)。しかし、内的側面が外的側面に影響を及ぼす因果関係を想定している研究 (石津・安保, 2009; 風間, 2015) もあれば、外的側面が内的側面 (本来感) に影響を及ぼす因果関係を想定している研究もある (益子, 2013)。これらの異なる結果は、すべて横断データを用いた分析であり、変数間の因果関係モデルの妥当性は十分に確認されていない。そこで、本研究では、過剰適応の外的適応と内的適応の側面、本来感、抑うつの影響関係について、縦断データを用いて検討することを目的とした。本研究では、大学生、大学院生を対象とし、2 回の質問紙調査を実施した。外的側面と内的側面、本来感、抑うつの関係について、交差遅延効果モデルを検討した。モデルの適合度は、$\chi^2(48) = 57.833, p = .156$, GFI = .953, AGFI = .898, CFI = .994, RMSEA = .036, AIC = 171.833 であった。交差遅延効果を表すパスは、すべて有意ではなかった。先行研究で想定されていた過剰適応の外的側面と内的側面の因果関係や、過剰適応と抑うつとの関係は、いずれも示されず、仮説は支持されなかった。交差遅延効果が示されなかった理由として、縦断調査の期間が短かった可能性が考えられる。本研究は短期 2 時点の縦断調査であったことから、今後は中長期にわたる 3 時点以上の縦断データによって、過剰適応の外的側面と内的側面の関係や抑うつとの関係について検討していくことも求められる。</p> <p><成果></p> <p>学会では、本研究の成果についてポスター発表を行った。他の参加者と、本研究の課題や今後の展望などについてディスカッションを行った。今後の研究活動で活かせる知見を得ることができた。</p>	

※無断転載禁止